

写真作品の創造の楽しさ

電気工学科 S39年卒 修士 S43修了 山下 英生



虚無僧の行進

広島大学工学研究科に36年間勤めたのち、広島工業大学情報工学科に大学院を設置するために招聘を受け、70歳まで勤めました。広島大学の学生時代には写真部に所属し、暗室で画像が浮かび上がる瞬間のワクワク感を楽しみ、アサヒカメラ家庭写真の部1位入選、広島県美展入選、広島地域学生写真コンテスト入選などの賞を受け、写真作品の創造の楽しさを味わいました。

大学院卒業後、研究職の忙しさに、趣味の写真に手を出すことは難しい状況でした。退職後は、写真創造の世界もフィルム現像や写真作品のプリント処理は、過去のものとなっており、現在は、パソコンによるデジタル画像の現像処理、プリンターによる作品印刷の時代へ移り、昔のような画像が浮かび上がるワクワク感はありませんが、作品の構図決めに苦労しながら、自然な発色に極力注意しながら、画像処理のむつかしさを楽しんでおります。

ここに掲示する写真は、広島市東区二葉の里の七社寺で、毎年8月6日の前夜、祈りと平和の夕べが行われており、七社寺の一つ、聖光寺で行われる虚無僧による尺八演奏行進の一場面です。